

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300459		
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会		
事業所名	グループホーム なごみ	ユニット名	古都
所在地	宮城県栗原市志波姫北郷大門87		
自己評価作成日	平成 27年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地が良く大型スーパーや東北新幹線くりこま高原駅に近く、遠方からの面会に便利と喜ばれている。法人敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスセンターが併設されており、看護師や管理栄養士の協力を得る事が出来る。お祭りを合同で行ったり、慰問の歌や踊りを一緒に見る等の交流が多くある。地域のお祭りに出掛けたり、文化祭に作品を出展し見学に行く事で、地域の方々との交流を図っている。協力医の内科、精神科、歯科、PTの回診があり、各医師による勉強会も実施している。内部、外部研修にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。毎月の避難訓練と年2回の消防署、地域協力員参加の訓練もっており防災設備も整っている。空きベットを利用したショートステイや、常時3名定員のデイサービスも行い御利用頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栗原市東南部の志波姫にある「グループホームなごみ」は東北新幹線くりこま高原駅から約1km圏の田園地帯にあり、同法人が運営する特別養護老人ホーム等と同一敷地内にあり看護師、管理栄養士等の連携体制も充実している。栗駒山や伊豆沼等の自然に囲まれ四季折々のドライブや家族との交流会、クリスマス会等も開催している。地域密着に向けた地域協力員会議を開催しており、運営推進会議への参加や災害時通報連絡等の協力的体制も確立されている。「帰宅願望の外出」「暴言行為等入居者の対応」の目標達成計画については職員間の意見交換で具体的解決を図り、入居者個々の意志を尊重したケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームなごみ**)「ユニット名 **古都** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福祉会としての理念、なごみ独自の理念を常に目の届く所に掲示している。(理念については年度末の見直しを行っている)理念の達成度については自己評価し管理者と面談している。	全職員で理念の見直しを行っており職員別の達成目標も設定し共有している。目標管理シートを活用した面談による振り返りを毎月実施し、サービス向上委員会等の内容とともに入居者のケアにも反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する農村公園の清掃や道路の清掃を地域の方々と一緒に行っている。文化祭には作品を出展し地域の方に見て頂き理解を深めて頂いている。又、月1回ボランティアの受け入れも行い歌や踊りを通し交流を図っている。	公民館の文化祭に入居者の編み物等を出展した。社協ボランティアの定期訪問や高校生の実習受け入れ、地域とは夏祭りや芋煮会開催と近隣農家への畑作業手伝い、ホーム畑への耕作支援等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学者や高校生の校外実習、中学生の職場体験を受け入れている。空きベットを利用してのショートステイやデイサービスも行っている。広報紙を発行したり、地域の方々の相談にも応じている。地域の方の協力により、夏祭りも盛大に行われている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に会議を持ち、生活の様子や活動状況を報告している。各テーマをもうけ現在のなごみのテーマに対する取り組みなども紹介し意見交換を行っている。	市、区長、地域、婦人会、家族、入居者等の参加で年6回開催している。議題には業務の介護内容等を紹介することで「ここまでやるのか」等感嘆の声や、入浴リフトの導入、他の施設等への転居等の提案もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市民サービス課長を推進委員の委員に委託している。その他運営上不明な点等、市担当者に相談しスムーズな運営に活かしている。市主催の研修にも参加している。	運営推進会議に出席する市担当課長等との意見交換を積極的に実施し、栗原市地域ケアネットワーク会議や介護保険法改定関連講習会等にも参加している。来年度は地域貢献活動の実施を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修会等に参加し、処遇会議で伝達し常に抑圧感の無い生活の支援に努めている。また日中玄関や居室の施錠も行わず、利用者の所在の把握、行動の把握に気を配っている。	研修会受講後は職員会議時に周知、共有し、身体拘束を行わないケアを実践している。車椅子の使用に関する心的抑圧等の要因を職員間で分析を行い、現在、常時使用する入居者はなく、玄関等の昼間施錠や夜間センサー使用もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し処遇会議で伝達する事により、職員の意識統一を図り言葉使い、態度に気を配りながら虐待防止(職員、利用者間)に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネット上より周知事項を抜粋し処遇会議内にて発表している。成年後見制度の活用の実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を分かりやすく説明し理解を得ている。又変更時には文章と直接説明し理解を得ている。通所デイサービスショー利用についても同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に傾聴し利用者の意見を反映するように心掛けている。家族については面会時や行事参加の際、会話の中より見出すよう心掛けている。運営推進委員会でも伺い反映させている。	ケアチェック表を用いて状況を報告し、要望を聞いている。「歩かせて」「本人の話聞いてほしい」などを計画書に反映させた。重度化時の特養入所条件についての相談があり説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇会議、カンファレンス、サービス向上委員会、その他必要な委員会・係の話し合いを持ち、小さな問題提案から全体会議にて討議合意形成を図り再度見直しをより良い形に近づけるよう取り組んでいる。また、個々に定期的な面接を行い、運営方法等の確認を行いながら進めている。	職員との面談時だけでなく日常においても意見、要望が出せる状況にあり、食堂の回転椅子の取り替えや職員ロッカー床の改修の提案があり実施した。資格取得の支援もあり職員の意欲につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断年2回実施。。腰椎検査等、心身の健康保持に努めている。資格取得の支援も行われ、向上心を持って働けるよう働きかけがある。また、個々に定期的な管理者との面接を行い、運営方法などの確認を行い主体的にレベルアップに繋げられるよう支援し、結果に応じ給与・賞与に反映を行いながら進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年を通し各種主催の外部研修に参加し、職員個々のスキルアップに繋げており、研修内容を処遇会議で報告し共通理解に努めている。また、年間計画に基づき、部署内研修会の開催や外部の専門家を招いての法人全体での研修会も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の多く参加する研修会等に参加し、意見を参考にしながら事例検討堅研修に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネを通して基本情報を頂き、ご本人と家族に事前に面談し、情報を把握するよう努めている。利用開始にあたっては、本人の話を傾聴し皆様の輪の中に入れるよう環境作りに努めている。環境が変わっても不安にならない様声掛け行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に自宅での介護の様子を聴き、本人はもちろん家族も安心して生活で出来るように支援を行っている。常に家族と連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を傾聴し新しい環境に早く慣れて頂くよう努めている。柔軟な対応を行い改善に向けた支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である皆様の得意分野を見出し、発揮できるよう工夫をしている。互に支え合いながら生活出来るよう、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会や家族との外出が出来るよう支援している。外来受診の家族付添いや、家族参加の行事を設けている。状態変化があるときは、手紙や電話で状態報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に2ヶ月に1回行き、そのまま友達の所に立ち寄り、昼食を食べながら談笑する楽しみを利用者の生活習慣とし、尊重している。(送迎は美容院の方が行ってくれる)	平均89.5歳と高齢になり面会に来る友人等も少なく、馴染みの美容院に行く入居者は1名のみである。ホール内での談笑光景も見られ、編み物や畑作業、ゴミ捨て等のグループ化で孤立しない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自由に過ごせるように居場所の確保に努め、利用者同士の関係を十分に把握し、活動等を通じて円滑になるようにしている。(職員は情報連携し、共有できるようにしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が母体施設に移った際は顔を見に行ったり、交流行事に参加した際は様子を伺ったりして交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から希望・意向の把握をし、出来るだけ叶えられる様努めている。	1対1の場合に本音が出やすいとの職員意見から、居室や入浴時等に食事や外出場所等の希望を聞き出している。ご主人との思い出の指輪を紛失して落ち込んでいる入居者には思い出さないような配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も常に会話を持ち生活歴習慣の把握に努めている。新しい発見や情報もその都度記録しており、家族の協力も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の生活リズムを理解し行動等から感じ取りながら、全体像を把握している。個々の有する能力を見極めお手伝いや得意分野に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討課題を共有し、家族の意向を聞き入れながら作成している。月末のカンファレンス時には評価し見直しが必要であれば話し合いをし、取り入れるようにしている。	毎日のモニタリングからケアチェック表を作成し、毎月評価を行い6ヶ月毎に見直す。課題分析表等から作成担当者が計画書作成と見直しをしている。食事でむせる入居者には普通食から刻み食に計画変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とチェック表を記入している。ケアカンファレンスを行い、職員間で情報の共有を行い、介護計画の見直しや実践に活かしている。毎日の引継ぎで変化について話し合い工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望時にはいつでも外出・外泊されている。通院などについても職員が代行・付添いを行い、支援している。また、その他相談に応じ柔軟に対応出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域協力員会議、防災訓練等は地域の協力を得ている。また、近隣の農家で芋掘りを行ったり、地区の行事にも参加出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望されるかかりつけ医となっている。基本的には受診や通院は家族となっているが、都合が着かない時には職員が代行している。家族の受診時には文章や口頭で状況を報告している。	約半数のかかりつけ医希望以外の入居者は毎月1回協力医の往診がある。緊急時や違和感等が生じた場合は家族に連絡し、担当医の指示や法人看護師の協力を得て対応し、その状況を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康管理や状態変化時には、母体施設の看護師に相談し協力を頂き支援している。協力医の看護師とも連絡を取り、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず同行し家族や医師との情報交換や相談に努めている。入院中も度々病院を訪れ状態を伺っている。本人の回復状態を把握し、退院後の受け入れや、対応を、医師、家族と話し合い安定した生活が送れるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の必要性があると、当事業所では対応できない為、入所時に特養への入所申込みをして頂いている。当施設での看取り支援に関する意向確認書を家族より記入頂いている。	入居時にグループホームでは「終末期の看取りをしない」との方針を文書で説明している。特養への入所や入院を希望するかを選択して頂き同意を得ている。法人の特養入所を希望する場合は、当ホームからの入所連携等を説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当の講習を受講している。また事故発生時や緊急時のマニュアルは作成されており、全職員は心得ている。事故発生時は、事故防止対策検討会で検討し再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉会と地域協力員の災害時のマニュアルが作成されている。日中は勿論の事、夜間想定避難訓練も月1回定期的に行われている。消防立会いの訓練は年2回行われており、講評時に意見交換を交え、より良い防災対策に努めている。	地域協力員12名の緊急通報装置登録、及び、2ヶ所の居室から車椅子避難用スロープの設置がある。避難訓練は昼夜と異なる発生場所を想定し、消防署の講評にあった実際の消火訓練も毎月実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心懸けている。特に声掛けの際は細心の注意を払い、分かりやすい言葉掛けと笑顔で対応している。入室の際は、ひと声掛けてから入室するようにしている。	職員の排泄誘導等の話しかけに、さりげなさ と心地よい語り掛けが感じられる。日常や外出時の服装選び時にも本人の意思を配慮した支援がある。静かにテレビを見ている入居者には優しく見守りで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせてご本人が答えやすく選びやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身の状態に応じて自分なりの生活が出来るよう支援を行っている。本人の意思を尊重して活動や行事に参加して頂いている。無理のないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ行ったり、(美容院で送迎)出張床屋をして頂き本人の気持ちに合わせてその人らしくのおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や旬の食材を取り入れている。又、週に一度希望献立が設けられており、皆さん希望の食材を取り入れている。各々に合ったお手伝い(テーブル拭き、茶碗洗い、茶碗拭き)を職員と共に行っている。	日曜日のフリー献立には、店頭には稀なマス等の希望もある。食事は入居者の咀嚼状況に合わせて提供しているが、嘔吐した場合は現物を確認し野菜の切り方等の原因を探り、刻み食やペースト食に変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、栄養バランスが摂られ、摂取量の記録も細目に行っている。カロリー制限や、塩分制限の方もおり、把握をしながら提供して。また、咀嚼や嚥下状態に応じ、刻み食やペースト食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛け見守りを行い、出来ない方には各々に応じた歯磨きの手伝いを行っている。歯の無い方には歯磨テッシュ等を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握している。時間ごとの声掛けや誘導を行い、本人の能力に応じた支援を行っている。トイレのサインは見逃さず、失禁を減らすように努めている。	苛立ちの多い入居者の要因が便秘からと分析し、主治医に相談して解消に結び付けた。排泄の自立支援については、車椅子利用者は手摺りでの立ち上がりや後処理の自己対処等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給(乳酸菌飲料等)の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。(主治医の内服薬を服用している方もいる)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にあった入浴を行っている。気の合う方同士や、一人で入りたい方の希望にも応じている。また、菖蒲湯やゆず湯等で季節感を味わって頂いている。	脱衣所、浴室に暖房設置、浴槽には滑り止め床や手摺りがあり安心への配慮がある。浴室も広く2、3人で談笑しながら入浴する入居者もいる。入浴時は自力洗浄の支援や肌を確認し保湿剤塗付等のケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気に触れる機会を多く持ち、活動を促し生活のリズムを整えるようにしている。就寝時は、音や光、温度に注意を払い良眠出来るよう支援している。就寝時間・起床時間も記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに各々綴っており、職員が内容を把握するようにしている。外来記録簿を作成し、受診内容を記録している。又内服変更時にも状態変化を詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意分野で力を発揮して頂き、出来そうな事を職員と共に楽しみながら行っている。常に感謝の言葉を添えて協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族交流会や地域での催事ごと祭り等に参加し楽しまれている。園庭の散歩、季節毎のドライブ等で気分転換を図って頂いている。出来る限り利用者の要望を取り入れるよう心掛けている。	計画的に行っている四季折々の花見、蓮見物等のドライブや近隣地域で開催する時代まつりの見物を行っている。入居者の要望を聞いた築館の互市や水車まつりへの外出やデイサービス送迎バスに同乗しての外出で地域利用者との交流も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より預かり、個別に金庫に保管し出納帳に記入し、毎月家族にサインを頂いている。自身で所持されている方もいる。外出の際、床屋代やお昼代を自分で支払って頂く機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物等があった際には自ら電話の出来る方もいるが、出来ない方には支援を行いながら、直接電話で話をしている。季節に合った手紙やはがきの支援も行っている。(年賀状、暑中見舞い等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、木のぬくもりがあり、心地良さが伝わってくる。天窓からは光が差し込み、ゆっくりとくつろげるよう配慮している。季節に合った掲示物を利用者と共に作成し掲示している。	敷地内に桜の木があり間近かで花見ができる。天窓のあるホール内は明るく入居者同士の寛ぐ光景があり、パブリックスペースの日当たりも良く椅子とテーブルが配置されている。壁面には入居者手作りの貼り絵や、寄贈された自然風景等の写真も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にパブリックを設け、読書をしたり、ひなたぼっこをしながら外を眺められるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら本人に合った室内環境作り、利用者の居心地の良さを配慮している。位牌を持参されている方もおり、毎朝お茶と水をあげ手を合わせている。	手作り品や家族からの手紙、写真等を飾っていたり、装飾の少ない居室等、入居者思いの配慮がある。室温調整は夏のエアコンだけでなく、簾での日除けや冬は全室への加湿器設置の配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分るように表札を工夫している。日時もわかる様に各居室及びホールにカレンダーを設置している。目線の集中しやすいテレビの上に時計を設置し、自然に時間が把握できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300459		
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	森の家
所在地	宮城県栗原市志波姫北郷大門87		
自己評価作成日	平成 27年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスセンターが併設されており、看護師や管理栄養士の協力を得る事が出来る。式典や祭りを合同で行い、慰問の歌や踊りを一緒に見る等の交流が多くある。地域の祭り見物等にも毎年出かけ文化祭には活動で制作した作品を出品している。また、高校生の介護実習の受け入れも行っている。協力医の内科、精神科、歯科、PTの回診があり各医師による勉強会も実施している。内部研修、外部研修にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。毎月の避難訓練と、年2回の消防署、地域協力員参加の訓練も行っており、防災設備も整っている。空きベットを利用したショートステイとデイサービス事業も行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月 7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栗原市東南部の志波姫にある「グループホームなごみ」は東北新幹線くりこま高原駅から約1km圏の田園地帯にあり、同法人が運営する特別養護老人ホーム等と同一敷地内にあり看護師、管理栄養士等の連携体制も充実している。栗駒山や伊豆沼等の自然に囲まれ四季折々のドライブや家族との交流会、クリスマス会等も開催している。地域密着に向けた地域協力員会議を開催しており、運営推進会議への参加や災害時通報連絡等の協力体制も確立されている。「帰宅願望の外出」「暴言行為等入居者の対応」の目標達成計画については職員間の意見交換で具体的解決を図り、入居者個々の意志を尊重したケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなごみ)「ユニット名 森の家 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を見直し掲示している。また各職員に1年間の目標を記載して達成度を自己評価しその後管理者との面談を行っている。	全職員で理念の見直しを行っており職員別の達成目標も設定し共有している。目標管理シートを活用した面談による振り返りを毎月実施し、サービス向上委員会等の内容とともに入居者のケアにも反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する農村公園の清掃を地域の方々と一緒に行っている。又、地域住民のボランティアも受け入れており活動にも参加している。地域の祭り見物にも出かけている。	公民館の文化祭に入居者の編み物等を出展した。社協ボランティアの定期訪問や高校生の実習受け入れ、地域とは夏祭りや芋煮会開催と近隣農家への畑作業手伝い、ホーム畑への耕作支援等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学者や高校生、中学生の職場訪問を受け入れている。空ベッドを利用したのショートステイやデイサービスを行っている。広報紙を発行したり地域の方の相談や疑問質問にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に会議をもち、生活の様子や活動状況を報告している。質問やご意見を受け施設の向上に役立っている。メンバーの皆様と利用者様とで一緒にお茶を飲んだりしながら談笑し会議を作り上げている。	市、区長、地域、婦人会、家族、入居者等の参加で年6回開催している。議題には業務の介護内容等を紹介することで「ここまでやるのか」等感嘆の声や、入浴リフトの導入、他の施設等への転居等の提案もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員のメンバーで様々な情報を頂いている。又インフルエンザの予防接種時や検診車で検診時にも問診票など配布して頂いている。市主催の研修にも参加。	運営推進会議に出席する市担当課長等との意見交換を積極的に実施し、栗原市地域ケアネットワーク会議や介護保険法改定関連講習会等にも参加している。来年度は地域貢献活動の実施を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠しないことはもちろんのこと、各居室の窓も暑い時は開けており利用者の所在の把握や行動の把握に気を配っている。研修や勉強会に参加し職員全体で意識統一を図っている。利用者のリスクと対応について家族と話し合い理解を頂いている。	研修会受講後は職員会議時に周知、共有し、身体拘束を行わないケアを実践している。車椅子の使用に関する心的抑圧等の要因を職員間で分析を行い、現在、常時使用する入居者はなく、玄関等の昼間施錠や夜間センサー使用もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し意識統一を図っている。身体的虐待は勿論のこと心理面でも職員一人ひとりの言葉遣いや態度に気を配り防止に努めている。又利用者同士の関係にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し処遇会議内にて発表している。成年後見制度の活用の実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書をわかりやすく説明して納得頂き契約している。個人情報使用目的に関する同意書、ショートステイ利用、認知症ケア加算に関する同意書など頂いている。介護報酬改正時にも書面で説明し同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者代表、家族代表に意見を頂いている。事業所内に外部の相談窓口を表示している。家族の来訪時や電話連絡で意見や要望をお聞きし運営に反映させている。	ケアチェック表を用いて状況を報告し、要望を聞いている。「歩かせて」「本人の話を聞いてほしい」などを計画書に反映させた。重度化時の特養入所条件についての相談があり説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体での勉強会や説明会があり意見交換をしている。なごみの処遇会議内でも意見交換の場を設けている。職員各々目標を掲げ自己評価と面談で意見を取り入れたり、賞与に反映させている。毎月の利用率を会議で発表し全職員で努力している。経費削減も話し合い意見を反映させている。	職員との面談時だけでなく日常においても意見、要望が出せる状況にあり、食堂の回転椅子の取り替えや職員ロッカー床の改修の提案があり実施した。資格取得の支援もあり職員の意欲につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時には報奨金があり、給与に資格手当がつく。目標管理シートで考課査定を行い、賞与や正職員登用に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修や本人の希望を取り入れ外部研修に参加している。又所内研修、法人の勉強会も行っている。管理者は職員の力量により目標を設定させ面談することで職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の多く参加する研修会等に参加し意見を参考にしながら事例検討研修にも取り組んでいる。また事業形態が異なる事業所との交流会等にも積極的に参加し意見交換・懇親を深める取り組みを行っている。他にも地域包括センターの主催する認知症を抱える家族の会などにも参加し様々な角度からのアプローチを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネを通して基本情報をいただき、ご本人と家族に事前に面談し、情報を把握するよう努める。利用開始に当たっては、本人の話を傾聴し皆様の輪の中に入れるよう環境作りに努めている。環境が変わっても不安にならないよう声がけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に自宅での介護の様子を聴き、本人はもちろん家族も安心して生活できるように支援を行っている。常に家族と連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を伺い、新しい環境に早く慣れて頂くよう努めている。柔軟な対応を行い改善に向けた支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である皆様の得意分野を見出し、発揮できるよう工夫している。互いに支え合いながら生活できるよう、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会や家族との外出ができるよう支援している。外来受診の家族付添いや、家族参加の行事を設けている。状態変化がある時は電話や手紙で報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、友人などが気軽に面会に来られるような雰囲気づくりに努めている。自宅周辺へのドライブや地区の祭り見物にも参加している。	平均89.5歳と高齢になり面会に来る友人等も少なく、馴染みの美容院に行く入居者は1名のみである。ホール内での談笑光景も見られ、編み物や畑作業、ゴミ捨て等のグループ化で孤立しない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自由に過ごせるように居場所の確保に努め、利用者同士の関係を十分に把握し、活動等を通じて円滑になるようにしている。(職員は情報共有できるようにしている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が母体施設に移った時には時間を見つけては顔を見に行ったり、家族の方も職員や利用者の顔を見に寄って下さる事もある。その時の会話の中で支援できる事があれば出来る範囲内で行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から希望、意向の把握をし、できるだけ叶えられる様努めている。家族には面会時等に意向を伺っている。	1対1の場合に本音が出やすいとの職員意見から、居室や入浴時等に食事や外出場所等の希望を聞き出している。ご主人との思い出の指輪を紛失して落ち込んでいる入居者には思い出さないような配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も常に会話を持ち生活歴習慣の把握に努めている。新しい発見や情報もその都度記録しており、家族の協力も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し行動等から感じとりながら、全体像を把握している。個々の有する能力を見極め、お手伝いや活動に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討課題を共有し、家族の意向を聞き入れながら作成している。毎月カンファレンスと、モニタリングを行い必要に応じて、計画の変更を行っている。	毎日のモニタリングからケアチェック表を作成し、毎月評価を行い6ヶ月毎に見直す。課題分析表等から作成担当者が計画書作成と見直しをしている。食事でむせる入居者には普通食から刻み食に計画変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とチェック表を記入している。ケアカンファレンスを行い、職員間で情報の共有を行い介護計画の見直しや実践に活かしている。毎日の引き継ぎで変化について話し合い工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望時にはいつでも外出される。デイサービス、ショートステイ、福祉用具の活用、通院支援、外出支援、歯科、精神科、PTの協力も得ている。出張床屋の利用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域協力員会議、防災訓練などは地域の協力を得ている。また、近隣の農家で芋掘りを行ったり地区の行事にも参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望されるかかりつけ医となっている。基本的には受診や通院は家族となっているが、都合つかない時には職員が代行している。家族の受診時には、文章や口頭で状態を報告している。	約半数のかかりつけ医希望以外の入居者は毎月1回協力医の往診がある。緊急時や違和感等が生じた場合は家族に連絡し、担当医の指示や法人看護師の協力を得て対応し、その状況を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康管理や状態変化時には母体施設の看護師に相談し協力をいただき支援している。協力医の看護師とも連絡を取り相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず、同行し、家族や医師と情報交換に努めている。入院中も度々病院を訪れ状態を伺っている。本人の回復状態を把握し、退院後の受け入れや、対応を、医師、家族と話し合い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の必要性があると、当事業所では対応できないので、入所時に特養ホームに申し込みをして頂いている。当施設での看取り支援に関する意向確認書を家族様より記入頂いている。	入居時にグループホームでは「終末期の看取りをしない」との方針を文書で説明している。特養への入所や入院を希望するかを選択して頂き同意を得ている。法人の特養入所を希望する場合は、当ホームからの入所連携等を説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当の講習を受講している。又事故発生時や緊急時のマニュアルは作成されており、全職員は心得ている。事故発生時は事故防止対策検討会で検討し発生防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	福祉会と地域協力員の災害時のマニュアルが作成されている。日中は勿論の事、夜間想定避難訓練も月1回定期的に行われている。消防立会いの訓練は年2回行われている。	地域協力員12名の緊急通報装置登録、及び、2ヶ所の居室から車椅子避難用スロープの設置がある。避難訓練は昼夜と異なる発生場所を想定し、消防署の講評にあった実際の消火訓練も毎月実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心掛けている。特に言葉がけの際は細心の注意を払っている。入室の際は、ひと声かけてから入室するようにしている。会話時は分かりやすい言葉掛けと笑顔で対応している。	職員の排泄誘導等の話しかけに、さりげなさりと心地よい語り掛けが感じられる。日常や外出時の服装選び時にも本人の意思を配慮した支援がある。静かにテレビを見ている入居者には優しく見守りで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせてご本人が答えやすく選びやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身の状態に応じて、自分なりの生活が出来る様支援を行っている。本人の意思を尊重して活動や行事に参加していただいている。無理のないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の歯磨き、洗顔、ひげ剃りを状態に応じ支援したり、声がけしている。季節にあった洋服が選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や旬の食材を取り入れている。又、週に一度、希望献立が設けられており、皆さんの希望の食材を取り入れている。一人一人に合った、お手伝い(テーブル拭きや茶碗拭き)を職員と共にしている。	日曜日のフリー献立には、店頭には稀なマス等の希望もある。食事は入居者の咀嚼状況に合わせて提供しているが、嘔吐した場合は現物を確認し野菜の切り方等の原因を探り、刻み食やペースト食に変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、献立で栄養バランスが摂られ、摂取量の記録も細目に行なっている。カロリー制限や、塩分制限の方もおり、把握をしながら、提供している。又、咀嚼や嚥下状態に応じ、刻み食や、ペースト食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛け見守りを行い、出来ない方には各々に応じた歯磨きの手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、記録を行い、一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間ごとの声がけや誘導を行い、本人の能力に応じた支援を行っている。トイレのサインは見逃さず、失禁を減らす様に努めている。	苛立ちの多い入居者の要因が便秘からと分析し、主治医に相談して解消に結び付けた。排泄の自立支援については、車椅子利用者は手摺りでの立ち上がりや後処理の自己対処等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。排便確認を行い処方されている便秘薬の加減をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合った入浴を行っている。気の合う方同士や一人で入りたい方の希望にも応じている。また、菖蒲湯や、ゆず湯等で季節感を味わっていただいている。	脱衣所、浴室に暖房設置、浴槽には滑り止め床や手摺りがあり安心への配慮がある。浴室も広く2、3人で談笑しながら入浴する入居者もいる。入浴時は自力洗浄の支援や肌を確認し保湿剤塗付等のケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気に触れる機会を多く持ち、就寝時は、音や光、室温、湿度に注意を払い、良眠出来る様に支援している。就寝時間や起床時間等も記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴り、職員が内容を把握するようにしている。外来記録簿を作成し、受診内容を記録している。又、内服薬変更時にも状態変化を詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意分野で力を発揮していただき、出来そうな事を職員と共に楽しみながら行っている。常に感謝の言葉を添えて協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族旅行や地域での催事ごと祭りなどに参加し楽しませている。公園や園庭の散歩、自宅周辺のドライブで気分転換をはかっている。できる限り利用者の要望を取り入れるように心がけている。	計画的に行っている四季折々の花見、蓮見物等のドライブや近隣地域で開催する時代まつりの見物を行っている。入居者の要望を聞いた築館の互市や水車まつりへの外出やデイサービス送迎バスに同乗しての外出で地域利用者との交流も行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より、預かり、個別に金庫に保管し、出納帳に記入し、毎月家族にサインをいただいている。自身で所持されている方もいる。外出の際自分で食べた物の支払いを行って頂く機会も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物等があった際には、自ら、電話の出来る方もいるが、出来ない方には、支援を行いながら、直接、電話で話しをしていただいている。季節に合った、手紙やはがきの支援も行っている。(年賀状、暑中見舞い)	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、木のぬくもりがあり、心地良さが伝わってくる。天窓からは、光が差し込みゆっくりとくつろげるよう配慮している。季節により装飾を変えている。	敷地内に桜の木があり間近かで花見ができる。天窓のあるホール内は明るく入居者同士の寛ぐ光景があり、パブリックスペースの日当たりも良く椅子とテーブルが配置されている。壁面には入居者手作りの貼り絵や、寄贈された自然風景等の写真も飾られている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチで日光浴をしたり、廊下の一角にパブリックを設け、読書をしたり、外を眺めながら過ごせるスペースがある。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、本人に合った室内環境を作り、利用者の居心地の良さを配慮している。位牌を持参されている方もおり、毎朝、お茶と、水をあげ、手を合わせている。	手作り品や家族からの手紙、写真等を飾っていたり、装飾の少ない居室等、入居者思いの配慮がある。室温調整は夏のエアコンだけでなく、簾での日除けや冬は全室への加湿器設置の配慮がなされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかる様に表札を工夫している。日時もわかるようにその人に合った場所に時計を置いている。又、車椅子で入れるトイレが3箇所廊下幅も十分にある。トイレには常夜灯も設置。居室で照明のリモコンを使用している方もいる。	